

福祉さとやまべ

発行 松本市社会福祉協議会 里山辺支会
編集 福祉さとやまべ編集委員会
印刷 藤原印刷株式会社

日頃からいざという時に備えましょう

里山辺防災モデル事業について

里山辺地区地域づくりセンター長 宮澤 正起

一月に発生した能登半島地震は地震の恐ろしさを再認識する機会となりました。家や道路等、我々が長い期間をかけて積み上げてきたものを一瞬で壊していきます。松本市も糸魚川へ伸びる地震断層の上に位置しており、いつあのようなことが起きるかわかりません。普段から食料の備蓄や必要な備品を用意するなど、災害に備える必要があることは皆様ご存じのとおりです。

しかし、人間は「自分は大丈夫」という、緊急時でも正常性バイアスと呼ばれる心理状態となることが多く、避難が遅れる傾向があります。普段から防災に気を配り、避難指示が出た場合には速やかに行動できる体制作りが必要です。

里山辺地区では、令和四年度から地域づくりの一環で各地区が重点的に取り組む事業として、

町会長を主要な構成員とした自主防災連合会を中心に、「防災」をテーマに掲げ、考えてきました。

事業では主に、日頃の防災への意識啓発・安否確認・避難所運営について取り組んでいます。防災への意識啓発については、令和四年に「我が家の防災」というタイトルのリーフレットをお配りして、地震や風水害が起った際の対応について、また備蓄品、必要備品についてお知らせしました。

安否確認については、隣組長などが一目で安否確認ができる「安否確認カード」を作成し、今年の五月に地区の町会加入世帯を中心にお配りしました。初の試みとして、七月二十一日(日)九時から地区一斉の安否確認訓練を実施します。訓練を通じて、効果を検証し課題を洗

い出すことで、更なる地区の防災時の対応強化に取り組んでまいります。ぜひ、多くの住民の皆様のご参加をお願いいたします。避難所運営については、地区内三箇所の避難所の運営訓練を順次行い、避難所で必要なものを確認し、揃えてまいりました。今年度は里山辺体育館での開催となりますが、同時に山辺小学校、山辺中学校でも訓練を実施する予定です。

こうした訓練を通じて、住民の皆様の防災意識の向上に努めています。いざ災害が起きた時、行政からの支援がすぐにあるとは限りません。普段から各家庭で準備、また地区内での助け合いの仕組みが重要となります。訓練で気が付いたことをぜひ町会長等にお寄せください。今後の活動に役立ててまいります。



避難所開設訓練の様子

「里山辺かるた」 よもやま話 ④2

今、改めて
《暮らしの美》を見直そう！

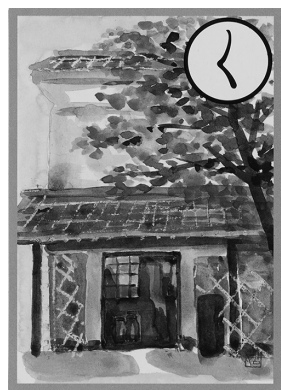
松本市地域文化財連絡協議会
副会長 小岩井 俊忠

中町の老舗「ちきりや」の主人丸山太郎氏は、柳宗悦の民芸運動に共感し、日本内外の民芸品の秀逸品を精力的に蒐集し、その全てを市に寄贈しました。そして下金井に開館したのが、『松本民芸館』です。その内容の充実ぶりから「日本三大民芸館の一つ」と賞する人もいます。高貴な人々の為の高価な工芸美術品でなく、一般庶民の生活の中の品に芸術性高いものが沢山ある。その美に光をあてようという運動に丸山も大いに共感したのです。

この素晴らしい宝を私たち地区住民も再認識し、改めて民芸館を訪れてみたいものです。

暮らしの美

集めて展示 民芸館



下金井にある民芸館

見守り活動から得られたもの

里山辺地区地域見守り隊

「里山辺地区地域見守り隊(以下「見守り隊」という。)」は、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指して、令和二年に発足しました。できる時に子どもや高齢者の方を見守ることが主な活動です。

その中でも、毎朝通学路に立っている隊員の方達に、見守り活動を通じて感じたことなどを教えていただきました。

①中澤 弘光さん(薄町)

小学校の近くに住む中澤さんは、登校時によく時間を尋ねられるため、子ども達から「時計おじさん」と呼ばれています。

見守り隊発足以前から十五年以上通学路に立ち続けていて、地区のお祭りの時に高校生位の子から「時計おじさんだ!」と呼びかけられたこともあり、自分を覚えてくれていたことが嬉しかったとのことでした。

②辻 憲一・トメ子さん(荒町)

「ボランティアの活動だけでなく、責任を持って取り組んでいる。時々子どもから話しかけてくれて、サッカーの話などをしてくれる。」と語る辻さんご夫婦。

見守り活動も二人でやるので続けやすいし、支えてくれる地域の人達もいるので励みになっているそうです。

③因幡 保さん(兎川寺)

自分の孫が小学校に通い始めたことが、因幡さんが見守り活動を始めたきっかけでした。中澤さん同様、十五年以上活動を続けています。

時には、泣いている子に付き添ってあげることもあるそう。一緒にいることで、安心して学校に通える子もいるようです。

皆さんに共通していたのは、見守り隊の活動は生活の一部になっただけで、朝から子ども達と触れ合うことで自分が元気を貰っているということでした。見守り隊は、誰でも気軽に参加していただけるボランティアです。皆さんも見守り隊員になりませんか?



気を付けていってらっしゃい!

「ひとりじゃないよ 皆がいるよ」

西荒町町会 長寿会

会長 市原富美敏

私たちの「長寿会」は、今から五十九年前の昭和四十年(一九六五年)四月一日に誕生し、会員は六十歳以上を対象に二十名でスタートした。

しかし、楽しかった行事も様変わりし、次第に役員不足や参加意欲も下がる一方で行事運営が低迷して来た。そこで、二十年前の平成五年度に我々に関係した町会行事の無い月を活用して、特に継続性があり、参加しやすい行事を目指し会独自の改善に着手。まず、役員は輪番制とし、会長に加え事務局長(行事の立案及び予算付と実行)と町会の三つのブロックに幹事(実行委員)を配置した。

行事は会員の意見で月々のテーマを決め、シルバースロンとして四月は総会・花見と親睦旅行。六月は景品付きゲーム大会。七月は七夕会(星に願いを込め、懐かしの童謡を合唱)。十月は「六夜様」(大正時代から町会に伝わる伝統行事を守る)。十一月は忘年会。二月は交通安全講習会(松本市の交通部に依頼)と新年会を立案し実行した。更

に各月の行事には必ず昼宴会とカラオケ大会や全員が歌える曲の大合唱と民謡踊りを定番化した。

その結果、会員も二十名以上を確保でき楽しい活動が定着している。こうして「人生百年時代」に向かって、お互いを尊重し合い「ひとりじゃないよ 皆がいるよ」の合い言葉で更にこの絆を深め邁進したい。



景品付きゲーム大会で盛り上がりました

編集後記

令和六年度 編集委員
委員長(町会連合会) 小岩井里美
民生・児童委員会 山田 克美
こども会育成会 矢崎 基
日赤奉仕団福祉部 赤羽亜希子
ボランティア部会 宮坂 聡美